

6年連続引上げ勧告！人事委員会

若年層中心 68号俸以上は引上げなし！



発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ
http://kakyoso.com/

給与勧告のポイント

- ①民間給与との較差362円(0.10%)を埋めるため、人事院勧告に準じた給与表の引上げ
- ②期末・勤勉手当(ボーナス)の支給月数の引上げ(0.05月分)
- ③住居手当 改定なし

人事管理のポイント

- ①人事評価の適切な実施と活用 より公平性や納得性の高い制度としていくことが重要
 - ②仕事と家庭の両立 男女を問わず、仕事と家庭の両立支援を図るため、多様で柔軟な働き方について検討していく必要がある
- 不妊治療への支援 治療を受けやすい職場環境の醸成を図るとともに、短期の特別休暇制度の創設について検討する必要がある

2018年・2019年給与引き上げ額比較 2級の例

	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019
1		41		81		121				
2		42		82	600	122				
3		43		83		123				
4		44		84		124				
5		45		85		125				
6		46		86	500	126				
7		47		87		127				
8	1700	48		88		128				
9		49	1100	89		129				
10		50		90		130				
11		51		91		131				
12		52		92	1400	132				
13		53		93		133				
14		54		94	1300	134				
15		55		95		135				
16	1600	56		96	1200	136				
17		57		97		137				
18		58		98	1100	138				
19		59		99	1000	139	400	0		
20		60		100	900	140				
21	1500	61	1000	101	800	141				
22		62		102	600	142				
23		63		103		143				
24		64		104	500	144				
25		65		105		145	400			
26		66		106	300	146				
27	1300	67	900	107	200	147				
28		68		108		148				
29		69		109		149				
30		70	700	110		150				
31		71		111		151				
32		72		112		152				
33		73		113		153				
34		74		114	0	154				
35		75		115		155				
36		76	600	116		156				
37		77		117		157				
38		78		118						
39		79		119						
40		80		120						

2018年の勧告は、ベテラン層もわずかとはいえ給与が引き上げられました。しかし、今回の改定は、68号俸から引上げなしです。これは公平な引上げ勧告とはいえません。68号俸以上の教職員といえ、それぞれの職場でミドルリーダーとして活躍しはじめる年代です。そこを引上げなしとすることは

引上げは若年者のみ！ベテランは用無し？

あまりにも非常です。香川県教職員の給与は、全国でも低位です。そのうえ、見せかけだけの引上げ勧告には憤りさえ感じます。

ある若年教員は、「自分の給与が上がるのはうれしい。でも、ベテランの給与が上がらないというのは、未来に希望が持てない。これから、結婚・子育てとやっていると不安になる」と話しています。

教員のなり手がなく、若年層の給与を上げ、教員志望者を増やしたいという意図は見えます。

しかし、ベテラン教員の中には、「自分たちは用無しと言われていたようだ。子育てにお金がかかる時期。物価もじわじわと上昇しているのに、給与が上がらないのは厳しい。国立大学の学費が2倍近く上がることで決まっている。国公立でも大学に進学させるのは厳しくなっている」とため息交じりに話しています。

不妊治療への支援

香教組女性部は、長年にわたる、不妊治療のための休暇の新設を要求してきました。今回の勧告は長年の運動の成果です。制度が整備されるとともに、職場の環境づくりも求められます。

10月9日、香川県人事委員会は、2019年 職員の給与等に関する報告と勧告をしました。8月の人事院勧告に準じ、6年連続の給与引き上げとなりました。

小黑板

台風による被害が深刻だ。地球温暖化の影響が日本でも見えるようになってきたという。大変な状況の中、日本の決勝トーナメントが行われた。被災された皆さまには申し訳ないと思いますが、折り返した後半、残り時間も忘れずに息を吐くようにしてください。鳥肌がたつほど興奮した。心から「ありがとう」と言いたい。日本チームの勝利は本当にうれしい。このために多くのことを犠牲にした選手のコメーションに感謝した。さて、この日本チーム。国籍は日本だが、ルーツは多国籍チームだ。しかし、そこは問わず、日本チ

多様性を認めて

いるがた本ノLな何そいううなこにだ題まの改めいッムとどとしてこかなどは問題に。多様性を認めて、多様な人材を育て、多様な働き方を推進する必要がある。多様な人材を育て、多様な働き方を推進する必要がある。多様な人材を育て、多様な働き方を推進する必要がある。多様な人材を育て、多様な働き方を推進する必要がある。

寄宿舎の必要性は重い！廃止は考えていない 県教委

全国から届いた2279筆の署名 提出 8年間の運動の成果！

組合

9月27日、香教組寄宿舎指導員部は、県教委特別支援教育課へ全国から寄せられた2279筆の署名を提出しました。同時に、寄宿舎の現状を訴え、さらなる改善を求めました。

県教委

○寄宿舎の必要性は重いと考えている。今のところ廃止は考えていない。

① 継続して採用試験を行い、正規の指導員の雇用をベテラン層が多く、若年層が少くない。特に、30代の女性が少ない。年齢・性別についてバランスを取った採用を

② 学校の訪問の時は、必ず寄宿舎へも行くようにしている

③ 舎生の重度化・重複化に伴い、重労働となっている。現状の寄宿舎指導員では、年休はおろか、病休も取れない。正規職員の増員を

④ 正規2級わたりの条件緩和を

⑤ 寄宿舎を廃止しないように



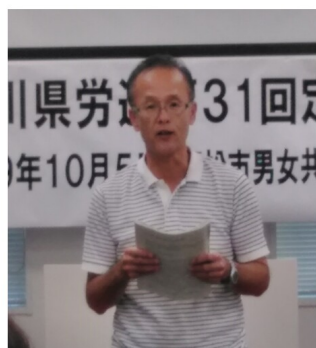
寄宿舎の実情を訴える寄宿舎指導員部

○寄宿舎は農業経営高校にもある。これも含めて適切な配置をしている。

8年前、全国の総合養護学校の流れにのり、香川県でも養護学校の統廃合・寄宿舎の廃止などが提案されました。香教組寄宿舎指導員部・障害児学校支部は、長年の運動の成果で実現した養護学校と寄宿舎の存続を求めて署名活動を始めました。

障害の重度化・重複化が進み、障害児の家庭での療育が難しく

なってきました。今だからこそ、寄宿舎での生活が、居場所として、また、自立支援の場として大変重要となってきました。県教委が「寄宿舎の重要性」を認め、今後も継続的な採用試験の実施するとしたことは、香教組運動の大きな成果です。署名協力いただいたみなさま、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。



挨拶をする大久保委員長

10月5日、男女共同参画センター（高松ミライエ6階）で、香川県労連第31回定期大会が開催されました。各団体から、職場環境の厳しい状況が報告されました。

「8時間働けば普通に暮らせる」社会の実現のために、県労連に集結する団体をさらに強く大きくし、一致する要求での地域共同をさらに進め、香川県内で要求勢力を作り上げ、力強く踏み出すことを決意し、大会宣言を採択しました。

要求は黙っていても実現されません。今こそ、組合が必要ですよ。あなたも、香教組で子どもたちのための教育をいっしょに実現しませんか？

県労連第31回定期大会開催

2020年度採用試験勉強会サークルが始まります。
詳しくは折込チラシをご覧ください。

10月27日は香川大学へ

第13回香川県教育研究集会
憲法が生きる教育
笑顔あふれる学校づくり

10月27日(日)
9:30~15:45
香川大学教育学部キャンパス内

開会行事 9:30~10:00
分科会 10:00~12:30
香川の教育をよくする県民会議総会 13:30~14:00
講演 14:00~15:30

講演「先生が先生になれない世の中で：教育を通して社会のあり方を問う」



教育研究者・土佐町議会議員 鈴木大裕さん
◆鈴木大裕さんプロフィール
1973年香川県生まれ。16歳で米田の全寮制高校に入学。そこでの教育に衝撃を受け、日本の教育改革を志す。97年ユールゲート大学教育学部卒。99年スタンフォード大学大学院修了(教育学修士)。帰国後、通信教育で教員免許を取得し、6年半千葉市の公立中学校で英語を教える。2008年に再度米田、フルブライト奨学生としてコロンビア大学大学院博士課程に入学。2016年、研究成績で「簡潔するアメリカの教育—日本への豊田」(雑誌掲載)の出版を機に帰国し、人口4,000人の香川県土佐郡土佐町に家族で移住。2019年4月に香川県土佐郡土佐町議会議員選挙にトップ当選。教育を通して町おこしに取り組んでいる。

分科会

- 第1分科会 「学ばせよう・授業づくり」
- 第2分科会 「学校づくり・平和教育」
- 第3分科会 「働きやすい職場づくり」
- 第4分科会 「特別なニーズを有する子どもたちへの教育」